

SPECIAL INFORMATION



東北への オマージュを込めた、 10年ぶりの上演。

喜劇、ミュージカル、日本語、推理劇、そしてどんでん返し¹の連続という…。好きなものをこの一作にすべて注いだ、井上ひさしの劇作の原点が今ここに。井上芳雄、小池栄子、朝海ひかる、山西惇²ら、錚々たる出演陣によって上映となる。



こまつ座 第135回公演『日本人のへそ』

会期 2021年3月6日(土)～3月28日(日)
場所 紀伊國屋サザンシアター-TAKASHIMAYA
〈優待チケット〉
公演日時 2021年3月7日(日) 15:00開演、13日(土) 18:30開演、16日(火) 18:30開演、18日(木) 13:00開演・18:30開演
料金 全席指定 9,700円 (通常料金10,000円)
 送料414円別途 ※未就学児入場不可
※詳しくはP38をご覧ください。

●事前に予告なくスケジュールが変更、また、やむを得ない事情により催行を中止する場合がございます。

世界へと導いていく。父の死後、劇団の運営に奮闘する。サザンシアターを紀伊國屋書店が手放すことになった時は、存続のために立ち上がり、「新宿という街のためにも劇場は必要だ」と、多くの人に手紙を出し、嘆願書を書いて訴えた。結果、高島屋が運営に参画したうえで、実務はそのまま紀伊國屋書店の事業部が行うことになった。「気がついたら、あれだけ苦手だった『熱い演劇人』に、自分になっていました」

それにしても、作家として常に仕事を抱えていたのに、どうして井上さんは苦勞をしても演劇をやめなかったのだろうか。「小説は読者との一本勝負。けれど芝居は、一番最後の部分をお客様が作ってくれる。演劇は共同体の力で、一人ではできないことをみんなで作っている、その醍醐味に尽きるよねと言っていました。『二人の作家の作品を上演する演劇集団は珍しい。シェイクスピアカンパニーくらいじゃないか』と言われたことがあります。こまつ座がやってこれたのは、舞台を観に来てくださるお客様、そして支えてくださる方々のおかげです」

借金も半分になり、返済の目処も立った。それなのに今年³は、新型コロナウイルスの影響でその大事な舞台を中止せざるをえなかった。オンライン公演を始めた劇団も多いが、麻矢さんはその利点を認めつつも、「こまつ座はやっぱり生の舞台にこだわりたい。劇場で時間と空間を共有することで受け取れる『何か』があると思うのです」という。「こまつ座では、一年のテーマをあらかじめみんなで話し合っていています。2020年は『発信する側と受信する側』で、2021年は『原点に戻る、グラウンド・

井上 麻矢

いのうえ まや こまつ座代表取締役社長。1967年東京都生まれ。文化学院高等部英語科に入学、在学中に渡仏。帰国後、新聞社をはじめさまざまな職を経験。後に2009年7月よりこまつ座支配人。同年11月より代表取締役社長就任。こまつ座は'17年第72回文化庁芸術祭演劇部門大賞ほか受賞多数。



上演前の紀伊國屋サザンシアター-TAKASHIMAYAの客席にて。

舞台は時代を映す「鏡」です

話で井上さんは、麻矢さんに演劇という厳しい世界のこと、そこでどうやって生きていくのかを伝えようとした。「最初は経理として、こまつ座に入りました。当時、私はやりがいのある仕事に就いていたので、

父の頼みを断っていたら、とうとう上司である女社長に父が直談判に行ってしまった。尊敬する社長に『一度くらいは、お父さんの言うことを聞きなさい』と諭されて、いざ劇団に入ってみたら9000万円ほどの借金がありました。父は2年くらいかけて関係者に私を紹介してから、こまつ座を継がせようと思っていたようなんですが、実際には私が劇団に入ってから9カ月で亡くなりました」

演劇は観客と共に 作りあげるもの

劇団は「家業」だったという麻矢さんだが、自身は演劇人の「熱さ」が苦手だった。

「演劇人は熱いマグマのようなものを抱えて、生命をかけてやっている人が多いのですが、自分は堅気の世界で生きていこうと思っていました。幼い時から芝居の世界で生きる両親を見てきて、『芝居は人を虜にする何かがある』と思って、怖かったんです」

だが、運命は麻矢さんを演劇の